

# 企業の中で 青少年に多様な体験活動の機会を

## 青少年の体験活動推進企業表彰

### 【平成30年度 表彰概要】

#### 表彰の目的

社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた実践を行っている企業を表彰し、全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の推進を図る。

#### 表彰の対象

企業が社会貢献活動の一環として主催し、参加する青少年を公募して実施したもの。平成30年度表彰は平成29年4月1日～平成30年3月31日に実施された体験活動を対象にした。

#### 表彰の内容

全国より47事業の応募があり、文部科学大臣賞が2件(大企業部門1件、中小企業部門1件)、審査委員会特別賞が3件(大企業部門2件、中小企業部門1件)、審査委員会奨励賞が14件(大企業部門12件、中小企業部門2件)選ばれた。

### これまでの文部科学大臣賞 受賞企業

年度	企業名・事業名
平成25年度	株式会社リコー [市村自然塾]
平成26年度	アサヒビール株式会社 [日本の環境を守る若武者育成塾]
平成27年度	大企業部門 パナソニック株式会社 [映像政策支援プログラムキッド・ウイットネス・ニュース(KWN)]
	中小企業部門 株式会社金沢大地 [コープ農園 大豆・味噌づくりコース]
平成28年度	大企業部門 ペンてる株式会社・キャノンマーケティングジャパン株式会社 [校舎の思い出プロジェクト]を2社共同で実施
	中小企業部門 ワイズティーネットワーク株式会社 [宇都宮市立中央小学校の紅茶部をサポート]
平成29年度	大企業部門 伊藤忠食品株式会社 [商業高校フードグランプリで食に関わる人材の育成・食育]
	中小企業部門 株式会社栄水化学 [心を磨く習慣教育「エコピカはかせのおそうじ塾」 ～子ども達が明るく育ち、地域がHAPPYになれる環境づくり～]

文部科学省のホームページに、これまでの詳細な情報が掲載されています。ぜひご覧ください。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/ikusei/taiken.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm)

青少年の体験活動推進

検索



文部科学省

平成31年2月

担当: 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課青少年教育室

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2 TEL:03-5253-4111(代表) <http://www.mext.go.jp>

# 平成30年度 青少年の体験活動推進企業表彰



## 体験活動で伸ばす、 社会を生き抜く力

青少年の体験活動の充実に向けた  
企業の取組



### 受賞企業一覧

#### 文部科学大臣賞

##### 【大企業部門】

株式会社テレビ東京

●「すべての子どもたちに届ける」[テレビ東京の校外学習]

##### 【中小企業部門】

株式会社長坂養蜂場

●楽しく学んで、養蜂とミツバチの恵みへの理解を深める「夏休み子ども探蜜体験教室」

#### 審査委員会特別賞

##### 【大企業部門】

株式会社ファーストリテイリング

●「届けよう、服のチカラ」プロジェクト

株式会社みなと銀行

●～知的障がい者の就業を応援～特別支援学校での出張授業の開催

##### 【中小企業部門】

株式会社コクヨ工業滋賀

●「ヨシでびわ湖を守る リエデンプロジェクト」

#### 審査委員会奨励賞

##### 【大企業部門】

アマゾンジャパン合同会社

●近隣小学校と連携した小学生向けの体験授業「Amazon 最新技術の物流施設を体験してみよう！」

イオン株式会社

●イオン チアーズクラブ全国大会(沖縄・北海道)

大阪ガス株式会社

●地域とつながり共創する体験的、総合的食育プログラム「和食だし体験講座」

株式会社タカラトミー

●100年あそぼ～おもちゃを通じた次世代教育と教育もバリアフリーへ～

株式会社ファンケル

●「特別支援学校」の生徒が自立した「社会人」となるための身だしなみ・メイクの支援

KDDI株式会社

●KDDI 聴覚障がい者向けIT教室の実施

資生堂ジャパン株式会社

●資生堂子どもセミナー

新日鉄住金エンジニアリング株式会社

●情熱・先端Mission-E (高校生向けのエンジニアリング教育プログラム)

日本ハム株式会社

●日本ハム「ウイナーの手作り体験教室」～食べものと健康編～

東日本電信電話株式会社

●「オトノバ 音を体感するまなび場」ICCキッズ・プログラム2017

三井物産株式会社

●三井物産「サス学」アカデミー

森ビル株式会社

●ヒルズ街育プロジェクト

##### 【中小企業部門】

鳥取米子ソーラーパーク株式会社

●遊びながら学ぼう!!いろいろなエネルギー

有限会社エコ・ライス新潟

●都会の学校で田んぼづくり!子供たちと「稲作!」



職業仕事 “すべての子どもたちに届ける”  
「テレビ東京の校外学習」

株式会社テレビ東京 <http://www.tv-tokyo.co.jp/csr/>

- 【事業概要】 テレビ東京の校外学習は社内すべてが見学コースで、子供たちが本物の職場を体験するプログラム。病気や障害のある子供たちなど、様々な環境の子供たちの受入れを積極的に行い、すべての子供たちに体験を届ける。
- 【対象者】 小学校5年生から高校3年生※その他、相談に応じて受入れ
- 【実施日程】 平成29年4月～平成30年3月に下記の回数実施  
受入型校外学習:34回 出前授業:3回  
職業講話など:14回
- 【参加者】 計47校977人

「個性」を大切に、多少の失敗を恐れず果敢にチャレンジする社風が、ユニークな番組を生み出してきたテレビ東京。「他社がやらないことをやる」「他社が避けることをやる」これが、「テレビ東京のスピリッツ」である。

そんなテレビ東京だからこそできる「青少年の体験活動」がある。それはどんな子供たちにも体験活動の機会を提供することである。病気で学校に行けない子供。いじめで学校に行けない子供。障害があってテレビ局の見学に行けない子供。様々な理由で他のテレビ局などに受入れを断られた子供たちがいるが、テレビ東京はすべての子供たちを受け入れる。

生放送直前のスタジオのキャスター席でニュース原稿を読む体験をしたり、緊張感あふれる生放送の様子をサブコントロールルームで見学する。ロケに持っていき重さ約12キロのカメラを担ぐカメラマン体験も行う。こうした体験を通じて仕事の大変さと真剣に取り組むからこそ得られるやりがいを子供たちに学んでもらう。テレビ東京の校外学習は、病気

があろうとなかろうと、障害があろうとなかろうと、誰もがみんな楽しめる内容である。

子供たちには、SDGs=Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)に配慮した「ナナナ(バナナ)ペーパー」の名刺を配布している。バナナの茎は伐採しても1年で元に戻るために環境にやさしい素材。子供たちは、名刺をネックストラップに入れて社内をまわり、終了後は受講終了証になっている「校外学習手帳」にはさみ、思い出と一緒に持ち帰る。

これらの活動は、「CSR推進委員会」が中心となり、各部署やグループ会社からの協力者を募っている。「CSR推進委員会」で年度の計画を定めて実施し、年度末に経営会議に報告しており、この過程で改善点を洗い出し、より内容が濃い活動にするよう努力している。今後も、本物を体験する「テレビ東京の校外学習」をすべての子供たちに届けていく。



内容・進行

プログラムは、ニーズに応じて自在にカスタマイズしており、下見や綿密な打ち合わせを何度も行うことで、子供たちの安全を確保している。小児医療センターに長期入院している子供たちのための特別支援学校で行った出前授業では、中高生42人を対象に以下のプログラムを行い、教室に來られない子供たちのために病室にその様子を中継した。

〈特別支援学校を対象にしたプログラムの例〉

- ①導入・プログラム説明
- ②アナウンサー体験
  - ・発声練習、早口言葉、ニュース原稿の読み方
  - ・カメラの前でアナウンサーになってみよう!
- ③カメラマン体験
  - ・報道カメラマンの1日を見てみよう!
  - ・取材用カメラでの撮影の仕方
  - ・全員がカメラを操作してみよう!
- ④「卓球選手権」(アナウンサーの実況解説付き)
  - ・アナウンサーとカメラマンの仕事を見てみよう!
- ⑤ディレクターの仕事について
  - ・テレビについて考えてみよう!

情報発信の努力

CSR用のホームページ、フェイスブックなどを活用して情報発信をしている。

また、テレビ東京の活動について伝える「ウオッチ!7」で文部科学省からの表彰について放送。株主などのステークホルダー向けに発行している冊子「ナナノワ」にも活動内容を掲載。

さらに、テレビ東京の校外学習を体験した学校からの口コミで情報が広がっていることも実感している。

社内理解の醸成

組織横断的なCSR推進委員会、経営会議への報告、社内報での周知を行っている。

校外学習で訪問する学生服の子供たちが日常的に社内を歩き回っていることが、何よりも社内理解の醸成につながっている。また、仕事中の社員に声をかけ、「即席授業」をしてもらうことも重要だと考えている。

社内に活動が浸透し、校外学習が新入社員研修にも取り入れられるようになった。



自然環境

## 楽しく学んで、養蜂とミツバチの恵みへの理解を深める 「夏休み子ども採蜜体験教室」

株式会社長坂養蜂場 <https://www.1183.co.jp/blog/2019/01/21/夏休み子ども採蜜体験教室/>

**【事業概要】** 小学生を対象に、養蜂～採蜜～食育まで、一気通貫した体験の場を提供。普段実務として養蜂を行っている養蜂家や「はちみつマイスター」の有資格者が、ミツバチや養蜂、はちみつについて直接子供たちに説明する。

**【対象者】** 小学生(家族同伴)

**【実施日程】** 平成29年7月15日～17日  
※各日3教室、計9教室実施

**【参加者】** 計216人

ミツバチの花粉交配をはじめとした地球環境への役割やはちみつが自然の恵みの奇跡であることをイラストやクイズなどを使用して子供にも分かりやすく楽しく解説する。これからの日本を支える子供たちに、それらの大切さを知って成長してほしいという願いを込めた体験活動である。平成25年度より本事業を行っており、当初は1シーズン20人の限定教室だったが、多くの子供たちの思いに応えるため、体験教室の品質は落とさず内容を濃縮し、毎年改善し続けることで、現在では1シーズン約200人の子供たちの体験教室を実施するまでになった。

ミツバチ約8万匹を常時中庭で飼育しており、空間すべてを体験教室の題材としている。1匹のミツバチが生涯に作るはちみつは、わずかティースプーン1杯分といわれており、はちみつができるまでの過程を知ることでスプーン1杯の大切さを学び、生きるものに感謝をし、豊かな自然との共生に対

して興味・関心と想像力が芽生えることを目指している。また、未来ある子供たちに、養蜂業という希少な職業の存在を知ってもらい、養蜂への理解・関心を促している。

養蜂業ならではの巣蜜ごとはちみつを食べる体験を提供している。子供には「はちみつを、おうちごと食べる」という表現を使い興味を喚起し、ミツバチや自然に対する感謝の心を持ってもらえるよう工夫している。子供たちの記憶に特別な体験として残り、これからの人生に好影響を与えられるような、五感をめいっぱい使った体験教室を心掛けている。

さらに、体験で得たものを、子供が親、祖父母、友達に伝えていくことで、ミツバチやはちみつ、養蜂への理解が広がっていく。子供が学んだことの記憶定着のねらいもあり、家族や友達などに覚えたことを積極的に説明するよう促している。



### 内容・進行

- ①勉強タイム**  
座学でクイズを交えながら、ミツバチの生態や命、自然のありがたみ、はちみつの栄養や効能、ミツバチ取り扱い上の注意点などを学ぶ。
- ②養蜂体験**  
防護服を着て巣箱から巣板を取り出し、ミツバチの生態を観察する。約8万匹のミツバチがいる巣箱から巣板を取り出すことで、「いのちの重み」を体感することができる。
- ③採蜜体験**  
巣板の蜜蓋を包丁で切り、巣板を遠心分離機にかけ、はちみつをタンクに貯める。採蜜の過程を実感できる。
- ④食育体験**  
採れたてのはちみつを、ホットケーキにかけて味わう。はちみつの貴重さを思いながら頂くことで、食べ物への感謝とありがたみを知ることができる。
- ⑤おわりに**  
はちみつをマイボトルに詰める。家庭に戻って「はちみつのある暮らし」が始まり、そこから、ミツバチと自然、いのちや食べ物大切さを意識した暮らしにつながる。

### 情報発信の努力

過去に長坂養蜂場をご利用頂いたお客様や地域の方を対象に、約5万通のダイレクトメールを送付して案内を行っている。  
また、毎年、活動を新聞社へプレスリリースし、新聞に記事を掲載している。養蜂家への理解やミツバチ・はちみつを通じた自然環境への関心喚起など、この活動の価値を、新聞などを通じて広く地域社会に情報発信している。  
さらに、体験教室当日の様子が分かる内容を、公式SNSやブログ、ダイレクトメールなどを使って、関係者や地域社会に情報発信している。

### 社内理解の醸成

採蜜体験教室プロジェクトを社内で立ち上げ、計画段階から情報発信、実施後の社内レビュー、次回の実施構想に至るまで、経営者が参画している。  
また、体験教室当日の様子が分かる写真や当日のレポート、実施後の参加者アンケートなどを社内回覧や社内新聞で共有し、社員の活動への理解や参画意識を深めている。



# 審査委員会特別賞 [大企業部門]

## 生活文化 “届けよう、服のチカラ”プロジェクト



株式会社ファーストリテイリング <https://www.uniqlo.com/jp/sustainability/school/>

**【事業概要】** 国連難民高等弁務官事務所とのパートナーシップの基に取り組み、「社員による出張授業」と「子供服の回収活動」をセットにした児童生徒向け体験学習活動。回収した服は世界の難民キャンプなどに届ける。

**【対象者】** 小・中・高等学校の児童・生徒  
**【実施日程】** 平成29年6月～7月：出張授業、平成29年11月～平成30年2月：服の回収活動、平成30年2月：活動報告会  
**【参加者】** 計322校約3万人

「服」の生産から販売までを担う企業の責務として、服の価値を最後まで最大限活かしたいという思いから、着なくなった商品の回収活動を行っている。回収した服は難民キャンプなどへ届けているが、寄贈連携機関から来る服の要請の多くは「子供服」である。そこで、地域の学校と協働して子供服を回収する本活動を始めた。



活動のはじめに「出張授業」を行い、命を守る・人の尊厳を守るといった服が持つ“チカラ”と、今世界で起きている難民問題について提起し、この活動の意義を理解してもらっている。その後、児童生徒が主体となり「服の回収活動」を行い、集まった服は、国連難民高等弁務官事務所を通じて世界中の難民キャンプなどに届けている。活動の最後には、難民キャンプへ服を届けた様子を写真とレポートにまとめ、学校にフィードバックし、活動の振り返りとして活用してもらっている。

## 職業仕事 ～知的障がい者の就業を応援～ 特別支援学校での出張授業の開催



株式会社みなと銀行 <https://www.minatobk.co.jp/about/csr/region/>

**【事業概要】** 銀行員が特別支援学校を訪問し、卒業後の社会人生活で必要となる「銀行口座の開設」や「クレジットカードの正しい利用法」、就職面談に役に立つ「ビジネスマナー」などの体験授業を行う。

**【対象者】** 特別支援学校の生徒  
**【実施日程】** 平成29年12月～平成30年3月に計4回実施  
**【参加者】** 計3校115人

この授業は、卒業後に社会に出て、自立した生活を送ろうとしている知的障害を持った高校生を応援するものである。

銀行の利用方法の授業では、実際の銀行窓口でよく見られる銀行員とお客様のやり取りを再現したオリジナルビデオを活用している。また、口座開設では、本物の帳票への記入を体験してもらったり、キャッシュカードとクレジットカードの違いや、限度額が存在など、クレジットカードを利用する際の注意点についても学んでもらう。

ビジネスマナーの授業では、生徒は1班6人のグループを作り、銀行員2人が面接官役を務め、生徒は入社試験を受ける役とその横で講評する役に分かれてもらう。講評では、お互いの良かった点、悪かった点などを話し合ってもらい、教室は笑い声と真剣な眼差しが交錯する楽しい場となっている。



# 審査委員会特別賞 [中小企業部門]

## 自然環境 “ヨシでびわ湖を守る リエデンプロジェクト”



株式会社コクヨ工業滋賀 <https://www.kokuyo-shiga.co.jp/yoshinet/>

**【事業概要】** 琵琶湖のヨシ原保全とヨシの活用を目的とする本プロジェクトを平成19年から実施。平成21年に「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」を設立し、活動と活用の両輪で地域と連携した取り組みを進めている。

**【対象者】** 小学生から大学生までの家族  
**【実施日程】** 平成29年6月～平成30年2月に体験活動と環境授業を計7回実施  
**【参加者】** 延べ約1,000人

古くから琵琶湖周辺の人々は、ヨシ原と深く関わり合い独自の文化を形成してきた。しかし、時代の変化とともにヨシ原との関わりが薄れてしまい、ヨシ原の荒廃が進むことで琵琶湖の水環境や生態系、豊かな景観が損なわれ、伝統的なヨシ文化に影響を与えている。

当社は、ヨシ原保全を中心に、琵琶湖の水辺に関わる環境問題に貢献するため、『ヨシでびわ湖を守るネットワーク』を設立し、年間を通して琵琶湖の環境問題に関わり続けている。実際に冬の「ヨシ刈り」に参加する子供たちは、ヨシ原の広さやヨシの長さに驚き、生き物の巣跡を探す子供たちの姿も。夏の「外来魚駆除釣り大会」では、家族で琵琶湖の固有魚の大切さを学び、「カヌーでヨシ原観察会」では、湖面から見るヨシの生長期の風景に歓喜の声が上がっており、“家族の絆を深める絶好の機会だ”という声を頂いている。





## 審査委員会奨励賞 [大企業部門]

### 科学技術 近隣小学校と連携した小学生向けの体験授業 「Amazon 最新技術の物流施設を体験してみよう!」



アマゾンジャパン合同会社

<https://amazon-press.jp/Top-Navi/Press-releases/Presselist/Press-release/amazon/jp/Community/LocalCommunity20171117/>

【対象者】川崎市立東高津小学校5年生 【参加者】児童175人、教師10人  
【実施日程】平成29年9月、11月の2回



最新物流拠点である川崎フルフィルメントセンターにおいて、小学生を対象とした出張授業を開催。授業では、Amazonのグローバルビジネスについて説明したあと、商品の梱出し作業、安全に作業するための段ボールの運び方、商品を丁寧に梱包する方法を体験してもらうことで、たくさんの社員が力を合わせて仕事をしていることを教えている。また、商品の入荷から出荷までの工程のイラストを操作するプログラミングソフトを用いた体験学習により、視覚的・感覚的に物流を学ぶことができる。

### 自然環境 イオン チアーズクラブ全国大会(沖縄・北海道)



イオン株式会社

<https://www.aeon.info/sustainability/social/cheers/zenkoku/>

【対象者】小学4年生～中学3年生で選ばれたチアーズクラブメンバー 【参加者】沖縄大会:121人  
【実施日程】沖縄大会:平成29年7月、北海道大会:平成29年8月 北海道大会:111人



イオンの各店舗を拠点に、毎年テーマに沿った環境活動を行う(平成29年度のテーマは「ゴミ・リサイクル」)。そして、その成果を壁新聞にまとめて各地区大会で発表し、この地区大会で上位に選ばれたクラブは全国大会(沖縄・北海道)に出場する。全国大会では、壁新聞を用いたディスカッションやインタビューを行い、お互いに学び合う。また、ビーチクリーン活動などの野外活動も行い、最後にこの大会で得た気付きを共有して、自分の行動をどのように変えていくかを考えて発表する。

### 生活文化 地域とつながり共創する体験的、総合的食育プログラム 「和食だし体験講座」



大阪ガス株式会社

<http://www.osakagas.co.jp/shokuiku/wadashi.html>

【対象者】園児、小中高生、大学生、保護者など 【参加者】計5,643人  
【実施日程】平成29年5月～平成30年3月に191回実施



食に関わってきた企業として、おいしく、健康にも優れた「だし」を使った料理の伝承、普及に貢献するため、地域と連携、共創して本講座を開催。「だし」の魅力を五味・五感で実体験するとともに、クイズなどを取り入れて説明することで、「だし」の文化や効能を学ぶことができる。また、地元野菜などを使って自分たちの手で料理をすることで、地産地消や自然の恵みを生かした日本型食生活への理解を深めることができる。本講座を通じて、子供たちの心身の健やかな成長に貢献していきたい。

### 生活文化 100年あそび ～おもちゃを通じた次世代教育と教育もバリアフリーへ～



株式会社タカラトミー

<https://www.takaratomy.co.jp/products/kyouyu/report/2018.html>

【対象者】小学3年生～中学3年生 【参加者】計17人  
【実施日程】平成30年1月～2月に3回実施



おもちゃを教材にした「環境教育」「共生社会教育」「キャリア教育」を、一般の学校に加え、視覚特別支援学校でも実施。授業では、パッケージ上の各種表示やマーク類を点字や立体コピーにしたものを触ったり、見やすく拡大したものを読んだりしながらその意味について学んだあと、実際のおもちゃに触って確認する。身近なおもちゃを通じて、自分たちが感じている「不便さ」や「希望」は、より良い社会をつくるための提案力になることを知る機会としている。

### 生活文化 「特別支援学校」の生徒が自立した「社会人」となるための 身だしなみ・メイクの支援



株式会社ファンケル

<https://www.fancl.jp/csr/community/activity.html>

【対象者】特別支援学校に通う高校生 【参加者】計57校1,804人  
【実施日程】平成29年4月～平成30年3月に計65回実施



特別支援学校に通う高校生に、自分自身で基本的な身だしなみを整えられるようになってもらうため、「自立を目指す、社会人になるための身だしなみセミナー」を開催。セミナーでは、実際に洗顔スキンケア、メイク、整髪などを体験してもらうことで、自宅でも身だしなみを再現できるように習得してもらう。最後に、お互いに身だしなみが整った状態で感想を言い合ってもらうことで、身だしなみが整った状態の気持ち良さを感じ、自信を持つことができる。

### 職業仕事 KDDI 聴覚障がい者向けIT教室の実施



KDDI株式会社

<https://news.kddi.com/kddi/corporate/csr-topic/2018/03/28/3040.html>

【対象者】東京都立中央ろう学校の生徒(中学生) 【参加者】生徒10人、教師2人  
【実施日程】平成30年3月



ろう学校の中学生を対象に、聴覚障害者が抱える社会課題を自らの手で解決するIT教室を開催。手のひらに乗る超小型コンピューターを制作してもらい、リモートで音声認識された文字を瞬時にスマートフォンへ表示するアプリケーションを実装した。また、制作したコンピューターをテストし、今回の工夫点、気付きなどをプレゼンテーションしてもらった。全員が一人一台制作したことで「やればできる」という経験を得たと共に、IT活用について関心を持ってもらうことができた。

### 生活文化 資生堂子どもセミナー



資生堂ジャパン株式会社

<https://www.shiseidogroup.jp/kids/parents-teachers/index.html>

【対象者】小学4年生～6年生 【参加者】計416人  
【実施日程】平成29年6月～平成30年3月に計9件16コマ実施



小学4～6年生の男女を対象に、肌をテーマに健康で清潔な生活を習慣づけるための体験型出前授業「資生堂子どもセミナー」を実施。「正しい洗顔」の授業では、映像視聴、講義などにより洗顔に関する知識を説明したあとに、各児童が実際に泡立てを行うグループ実習を行うことで、「肌を大切に」「肌を清潔にする」ための情報や「肌を守る」ための正しい手入れ方法を学ぶことができる。子供たちが肌トラブルに自分で対処できるようになることが自信の育みへとつながり、自己肯定感の醸成につながっている。

### 科学技術 情熱・先端Mission-E (高校生向けのエンジニアリング教育プログラム)



新日鉄住金エンジニアリング株式会社

<https://www.eng.nssmc.com/csr/socialcontribution/index.html>

【対象者】関東地区と九州地区の高校からそれぞれ4～5校を選定 【参加者】計8校49人  
【実施日程】平成29年8月～平成30年3月



浮体式洋上風力発電や工場の廃熱利用など、大人もまだ解決できていない社会課題に挑むプログラム。参加チームは、与えられた課題に対して、学校で学ぶ知識や理論を活用して最適解を模索し、任命式から最終コンテストまでの8か月間かけて実機的设计・製作を行う。コンテストでは、実機の性能試験に加え、自由な発想で未来社会をイメージしたプレゼンテーションを行ってもらい、審査の上、優秀校を表彰する。当社エンジニアからの指導・交流を通じ、将来の進路やキャリア選択に役立ててもらっている。



## 審査委員会奨励賞 [大企業部門]

### 生活文化 日本ハム「ウインナーの手作り体験教室」 ～食べものと健康編～



日本ハム株式会社  
[https://www.nipponham.co.jp/csr/food\\_sports/education/handmade.html](https://www.nipponham.co.jp/csr/food_sports/education/handmade.html)

【対象者】小学3年生～中学3年生 【参加者】計1,527人  
【実施日程】平成29年4月～平成30年3月に計29回実施

小中学生を対象に座学と体験を組み合わせた授業を提供。座学では、3つの「さん」(1日3食、3色食品群を揃えた食事、サンキューの気持ちを持って食事をする)を用いてバランスの良い食事について伝えている。体験では、羊の腸、豚の挽肉を無駄にしないウインナー作りを行い、楽しく試食する。これらを通じて「正しく食べる」「食を楽しむ」「食べものを大切にすること」を学んでもらい、「食の自己管理能力」と「望ましい食習慣」を身につけてもらっている。



### 科学技術 「オトノバ 音を体感するまなび場」 ICCキッズ・プログラム2017



東日本電信電話株式会社  
<http://www.ntticc.or.jp/ja/exhibitions/2017/icc-kids-program-2017-oto-no-ba-sound-digging-with-the-senses/>

【対象者】小中学生 【参加者】計16,792人  
【実施日程】平成29年7月～8月

小中学生を対象に、最新のメディア・アートに触れる機会や体験型のワークショップなどを提供。音に合わせて香りが変化するオルガンを用いたコンサートや、イヤーマフを付けて音が聞こえづらい状態を作り、音を振動として感じる体験などを行う。これらの体験を通じ、私たちが聞いているものが何によってできているのか、見ることや動くことと触れること、あるいは素材、さらには場所などと結びつくことで、音がどのように変化するかなどを楽しみながら学ぶことができる。



### 生活文化 三井物産「サス学」アカデミー



三井物産株式会社  
<https://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/education/sasugaku/index.html>

【対象者】小学4年生～6年生 【参加者】計23人  
【実施日程】平成29年7月実施、5日間プログラム

「サス学」とは「サステナビリティ(持続可能性)学習」を意味する。参加者は、2050年の「メガシティ」「宇宙都市」「砂漠都市」「少子高齢化の進む地方都市」「途上国の都市」に住むという設定で、各都市の課題を解決するためのアイデアを具現化する。また、各都市をPRするプレゼンテーションを行い、最優秀都市を決定する。子供たちが課題に対して積極的に関わり、解決しようとする中で、「主体的に学ぶ姿勢」を身につけ、「学習力」「思考力」「応用力」「合意形成力」の向上を目指したプログラムとしている。



### 職業仕事 ヒルズ街育プロジェクト



森ビル株式会社  
<https://www.mori.co.jp/machiiku/>

【対象者】主に小学3年生～6年生とその保護者 【参加者】計1,692人  
【実施日程】平成29年4月～平成30年3月に62回実施

街づくりのノウハウや街の魅力を子供たちに伝えるとともに、楽しく学びながら次世代の都市のあり方を考えるプログラム。六本木ヒルズやアーキヒルズ、GINZA SIXなどの実際の「街」を舞台に、当社が街づくりで大切にしている「安全・安心」「環境・緑」「文化・芸術」をテーマに多様な体験型プログラムを実施している。未来を担う子供たちに「街」及び「街づくり」に興味・関心を持ってもらい、彼らの無限大の可能性を拓きながら、未来の都市づくりにつなげている。



## 審査委員会奨励賞 [中小企業部門]

### 自然環境 遊びながら学ぼう!!いろいろなエネルギー

鳥取米子ソーラーパーク株式会社  
<http://www.eco-tottori.com/kankyokan/>

【対象者】小学生など 【参加者】計2,657人  
【実施日程】平成29年4月～平成30年3月に計55回実施

「とっとり自然環境館」では、再生可能エネルギーの利用や環境に優しい取組について、見て、触れて、学べる機会を提供。太陽熱・バイオマスを使った料理体験ができるエネルギー教室や、風力・太陽光・水力発電の仕組みを学ぶ工作教室、ソーラーパークの仕事を体験できるお仕事体験ツアーなど、自然や環境について楽しく学ぶ機会を提供し、ここでの体験を通して、地球や環境を考えて生活する習慣が自然と身につくように進めている。



### 生活文化 都会の学校で田んぼづくり!子供たちと「稲作!」



有限会社エコ・ライス新潟  
<http://www.eco-rice.jp/>

【対象者】小学2年生・5年生、教師、保護者 【参加者】計約550人  
【実施日程】田植え:平成29年5月～7月、稲刈り:平成29年9月～10月、脱穀:平成29年10月～11月

古来より米づくりは、自然への観察力、地域での共同作業など、人が生きていく上で大切な要素で成り立っている。都会で生活する子供たちが、学校生活の中で、田植え、稲刈りなどの農業体験をすることで五感を通じて学ぶことができる。収穫した米は給食にするとともに「ポン菓子」にして多くの人で分かち合っている。農業・食の大切さや楽しさを体験することで、日本の米文化・農業の問題、日本の食の未来について学んでもらっている。





# 広がる企業の体験活動

## 職業仕事 商業高校フードグランプリ

伊藤忠食品株式会社  伊藤忠食品

<https://www.itochu-shokuhin.com/csr/school.html>  
商業高校を対象に地域の食材を使用して企業と開発した商品を募集しNo.1を決定する大会を主催。商品のエントリーを通じて商品開発に必要な条件や課題を学ぶことができ、「食に関わる若い人材の育成・食育」「地域食文化継承」に貢献する。

## 職業仕事 「TBS出前授業」

株式会社TBSテレビ 

<http://www.tbs.co.jp/csr/>  
アナウンサーや記者、カメラマンなどが小中学校に赴き、「ニュース編集長体験」「放送体験」などの特別授業を開催。「放送・情報とは何か？」をテーマとした体験型の授業で、情報を活用する能力「メディアリテラシー」などについて学ぶことができる。

## 職業仕事 「オープンスクール@カンテレ2017」

関西テレビ放送株式会社 

<https://www.ktv.jp/ktv/literacy/school/index.html>  
毎日メディアからあふれる情報から必要な情報を読み解く力「メディアリテラシー」を学ぶ。仮定の番組を題材にした体験型の講習により、「想像力」を働かせてメディアと付き合えば、伝える側と受け取る側の「相互理解」が生まれることなどを学ぶことができる。

## 科学技術 エネルギーを考える環境教育プログラム 「コンセントの向こう側はどうなっているの？」 ～実験で学ぼう！発電のしくみ～

株式会社東芝 

[https://www.toshiba.co.jp/env/jp/env\\_education/](https://www.toshiba.co.jp/env/jp/env_education/)  
普段使っている電気がどのように作られているのかを理解し、電気の安定供給と環境配慮という相反する視点から、望ましい発電方法の組み合わせを考える。日々の生活を見直すとともに、自ら考えて適切なエネルギーを選んでもらう機会としている。

## 科学技術 「宇宙を旅した大麦」 体験播種、体験収穫イベント

サッポロビール株式会社 

<http://www.sapporobeer.jp/company/index.html>  
近隣の小学生とその家族を対象に、当社が開発した日本唯一国際宇宙ステーションに5ヶ月間滞在した大麦の子孫を用いた播種や収穫、焙煎の体験、麦茶の試飲をしてもらう。子供たちに、科学や宇宙、生物に対する興味を持ってもらうことで、科学マインドの育成の一助としている。

## 職業仕事 日興の金融経済教育

SMBC日興証券株式会社 


<https://www.smbcnikko.co.jp/csr/education/index.html>  
子供たちが将来直面するであろう金融取引に適切に対処できるよう、必要な金融リテラシーを習得する機会を提供。出張授業や企業見学の受入れにより、金融に関心を持つ子供たちを増やすとともに、お金のことや自らの将来像について考えるきっかけを作る。

## 職業仕事 「中学生・高校生向け企業訪問プログラム」 「小学生向けプログラミング教室」

株式会社日立システムズ 

<https://www.hitachi-systems.com/>  
キャリア形成の一助となることを目的に、中高生の企業訪問を受け入れている。社員との対話を通じて「社会との関わり方」や「働くことの意味やよこび」を学ぶ機会を提供。また、小学生向けのプログラミング教室では、「モノづくり」の楽しさなどを学ぶことができる。

## 職業仕事 「ジョブシャドウイング」

千代田化工建設株式会社 

<https://www.chiyodacorp.com/jp/csr/stakeholder/social-contribution/topics01/>  
NPO法人JUKEが主催する「ジョブシャドウイング」を活用して高校生を受け入れ、仕事を体感してもらう。社員に1日同行することで、座学や読書では得られない肌感覚としてビジネスを体感することができ、新たな気付きや将来の選択肢が広がるきっかけが得られる。

## 科学技術 卓上型電子顕微鏡を用いた 理科教育支援活動

株式会社日立ハイテクノロジーズ 

<https://www.hitachi-hightech.com/jp/science-edu/>  
卓上型電子顕微鏡を小中学校の授業などに持ち込み、社員が講師となり、身近な物をミクロのスケールで見せる。「よく知っているものも、見方を変えることで新たに見える世界がある」ことを知ってもらい、科学技術への興味や関心を持つきっかけとなるような活動を行っている。

## 科学技術 フューチャー イノベーション フォーラム(FIF)「ITらぼ」

フューチャー株式会社 

[https://www.future.co.jp/about\\_us/csr/](https://www.future.co.jp/about_us/csr/)  
FIFは企業同士が連携し、CSR活動を行う団体。その一環で「ITらぼ」を立ち上げ、プログラミング教室などを開催。最先端テクノロジーに触れることで技術に対する理解、関心を高め、アイデアを出し合い具現化することで「協業」の楽しさを体験することができる。

## 自然環境 コープのがっこうシリーズ

いばらきコープ生活協同組合 

<http://ibaraki.coopnet.or.jp/csr/environment/>  
茨城県内の行政や諸団体と連携し、自然や環境をテーマにした2~4回の体験教室を開催。森や川、湖、海のがっこうではそれぞれの環境に住む生物・植物の観察や水辺環境の保全、畑のがっこうでは農作業を体験することで食の大切さを学ぶことができる。

## 自然環境 子どもたちの自然を大切に育む 「くじゅう九電の森」での環境教育

九州電力株式会社 

<http://www.kyuden-mirai.or.jp/>  
一般財団法人九電みらい財団を設立し、社有林「くじゅう九電の森」にて、講話と体験プログラムからなる環境教育を展開。地球温暖化などの環境問題を、体験を通じて学ぶことで自分たち自身の問題ととらえ、行動してもらうきっかけとしている。

## 自然環境 軽部小学校ぶどう栽培体験

サッポロビール株式会社 

<http://www.sapporobeer.jp/company/index.html>  
岡山ワイナリー内のぶどう畑の一部を近隣の赤磐市立軽部小学校に開放し、5月から9月までぶどうの栽培と一緒に学ぶ。ぶどうの生育の観察を通じて自然に触れることができるだけでなく、実際の作業を体験することで、地域の農業や仕事について学ぶことができる。

## 自然環境 ダイハツ社員と家族による 生物調査会

ダイハツ工業株式会社 

[https://www.daihatsu.com/jp/csr/environment/production/18\\_003.html](https://www.daihatsu.com/jp/csr/environment/production/18_003.html)  
滋賀工場のピオトープ池で、小中高生を主な対象として生物の調査会を実施。昆虫や魚を自ら観察して記録するなど、地域の自然や生き物に直接触れる機会となっており、この体験を通じて、自然環境に寄り添う気持ちを育むことができる。

## 生活文化 「カルピス」こども乳酸菌研究所

アサヒ飲料株式会社 

<https://www.asahiinryo.co.jp/peace/kids-labo/>  
小学生を対象とした出前授業。社員が講師となり「乳酸菌と発酵」をテーマに、食の大切さやゼロから新しいものをつくりだすための可能性を学ぶ。社員とのディスカッションで未来へのアイデアを主体的に考えるなど、食育・理科・総合学習などの複合的プログラム。

## 自然環境 出前授業「南極くらぶ」

NECネットエスアイ株式会社 

<https://www.nesic.co.jp/csr/contribute-education.html>  
南極越冬隊を経験した社員が講師になり、南極の自然や動物、越冬隊員の活動などを紹介。1~2万年前の空気が閉じ込められた南極の水に触れたり、極寒の南極で過ごすための防寒服を着用する体験ができ、自然科学への興味や環境問題への関心を高める。

## 自然環境 市村自然塾 九州

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 

<https://www.ccbji.co.jp/csv/township/happy.php>  
「生きる力を大地から学ぶ」を基本理念に、農業体験、自然学習、共同生活の3つを柱とした活動を行う。自然の恵みのありがたさや危険を察知する能力、命の尊さなどを学び、規律、自主性、創造性などの資質を育み、身体と精神両面での健全育成を支援する。

## 自然環境 サントリー水育「森と水の学校」 ～未来に水を引き継ぐために～

サントリーホールディングス株式会社 


<http://suntory.jp/MIZU-IKU/>  
小学校3~6年生とその保護者を対象に「サントリー天然水」のふるさと(白州・奥大山・阿蘇)で自然体験を行う。大自然の中で、森の探検や水に触れる体験を通じて、水の大切さや、水を育む森や自然の大切さを体感できる。

## 自然環境 「生物多様性保全活動出前授業」 「植樹体験活動」

横浜ゴム株式会社三重工場 

[https://www.yokohama.com/csr/data/pdf/09\\_2018.pdf](https://www.yokohama.com/csr/data/pdf/09_2018.pdf)  
生物多様性保全活動の一環として行った水質と生物のモニタリングの結果、子供たちへの教育が生物多様性保全のために有効であると考へ、近隣小学校児童へ環境教育出前授業を実施。また、伊勢市との環境協定を結び、工場敷地内で小学校児童に植樹体験を提供。

## 生活文化 「ファミリーマート ありがとうの手紙コンテスト」

株式会社ファミリーマート 

[http://www.family.co.jp/company/csr/children/thanks\\_letter/2018.html](http://www.family.co.jp/company/csr/children/thanks_letter/2018.html)  
感謝の気持ちを素直に表すことができる大人になってほしいという思いから、全国の小学生を対象とした「ありがとうの手紙コンテスト」を開催。感謝の気持ちを持つことや、その気持ちを文字や言葉として伝えることの大切さを学ぶ機会を提供している。



## 広がる企業の体験活動

### 生活文化 「旬のクッキングスタジオ」

生活協同組合コープみらい  
千葉県本部

<https://mirai.coopnet.or.jp/info/2018/07/046005.html>  
「親から離れて子供だけで」をコンセプトに、豊かな自然の中で野菜や果物の収穫や、石窯を使った料理などを体験する。生産者の思いや食べることの大切さ、幅広い世代の子供たちとコミュニケーションをとることの楽しさを実感できる。

### 生活文化 「わかめパワーのひみつについて探ろう!」

理研ビタミン株式会社

<https://www.rikenvitamin.jp/csr/community/shokuiku.html>  
日本人が昔から食してきた「わかめ」の栄養、生態、産地を体験型の授業の中で学ぶ。普段は見ることのできない3メートル近いわかめの原藻に見て触れて、においを嗅ぐという五感を使った体験ができ、実験を通じてわかめの整腸機能を学ぶことができる。

### 自然環境 「実感できる」環境学習の提供

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

<http://www.jbinc.co.jp/ecology/plaza/index.html>  
缶・ビン・ペットボトルのリサイクル工場「リサイクル・プラザJB」の運営を通じて環境学習(工場見学の入場・環境出前授業・ぼくとわたしのリサイクル作文コンクール)を提供。子供たちにリサイクルの現状を知ってもらい、物や資源の大切さに気付く機会としている。

### 自然環境 次世代育成プログラム「森の探検隊」

スポーツメディア株式会社

<http://www.shinonome-swim.jp/>  
幼稚園年長と小学2年生を対象とした野外教育事業。自然豊かな里山での体験活動を通じ、様々な発見の中で、時に感性をぶつけあひながら、どのように関係性を築けば良いかを学ぶことで、自他ともに認めあう豊かな心を育む活動を行っている。

### 生活文化 日本新薬子ども文学賞

日本新薬株式会社

<http://kodomo-bungaku.jp/>  
未来を担う子供たちの成長を見守りたいとの思いから、「夢」を彩る絵、「こころ」を育む物語を募集し、受賞作品で3万冊の絵本を制作。表彰式や医療機関で絵本を配布し、一人でも多くの子供たちに、夢と感動を届けている。

### 自然環境 環境指標種トンボを知り、守る～トンボ観察会～

旭化成住工株式会社

<https://www.asahi-kasei.co.jp/jyukou/csr/biodiversity.htm/>  
滋賀県には約100種のトンボが生息する。近隣の宿泊施設と連携し、その敷地に生息するトンボを観察し、捕獲する。その一部を子供たち自らが標本にする。これらを通じて、身近な昆虫トンボを知り、トンボの楽しさや、生息環境を守ることの大切さを学ぶことができる。

### 自然環境 「ホタルも棲める良い自然プロジェクト」

株式会社フジヤマ

<http://www.con-fujiyama.com/contributions/environment/hamahotaru/>  
市内の樹木公園で親子を対象に昆虫採集などのフィールドワークを実践。身近な自然に親しむ中で、自然の中を駆け回る楽しさや限られた空間にも多くの生き物があることを理解してもらい、環境や生物多様性に関する理解を深めてもらう。



## 子供たちが夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成

### 体験活動の必要性の高まり

今、我が国は、人生100年時代を迎えようとしており、また、超スマート社会(Society5.0)の実現に向けて人工知能(AI)やビッグデータの活用などの技術革新が急速に進んでいる。こうした社会の大転換を乗り越え、青少年が、豊かな人生を生き抜くために必要な力を身に付け、活躍できるようにする上で、教育の力の果たす役割は大きい。

このような時代を生き抜くためには、コミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働する力などが求められる。また、子供が自然の中で豊かな体験をしたり、文化芸術を体験して感性を豊かにしたりする機会が限られており、地域・家庭と連携・協働しつつ、体験活動の機会を確保していく必要性について指摘されている。

平成29年6月に発表された教育再生実行会議の「第十次提言」でも、様々な体験活動を通じて、何事にも積極的にチャレンジし、自らを高めていく姿勢を身に付けることと、自己を見つめ、「自分らしさ」を見失うことなく、リラックスして臨むことで自らの力を最大限発揮できるようになることも重要とされており、自己肯定感をバランスよく育む取組を推進していくことが求められている。

### 家庭、学校、地域が連携・協力した体験活動を

平成31年1月に発表された中央教育審議会答申「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」(平成31年1月25日)においては、「社会に開かれた教育課程」の理念も踏まえ、家庭や地域の人々とともに子供を育てていくという視点に立ち、地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等(多様な専門人材、高齢者、若者、PTA・青少

年団体、企業・NPO等)とともに、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)を進めながら、学校内外を通じた子供の生活の充実や活性化を図ることが大切であると、言われている。

学校教育と社会教育を通じて、子供たちが地域に幅広いつながりを持ち、生涯にわたり学び続けながら多面的な思考力を養い、主体的に社会を形成し、自ら問いを立ててその解決を目指す人材へと成長していく過程を支援することが重要であり、そのためには、家庭、学校、地域が連携・協力して、子供に体験活動の場を提供する必要がある。

### 今後の青少年の体験活動に向けて

「青少年の体験活動推進企業表彰」は中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」(平成25年1月21日)を受けて始まった。今回で6回目を迎え、応募内容も年々充実してきており、企業の青少年の体験活動への理解が確実に深まっており、今後の取組が一層期待される。

子供にとって、多様な経験を積み重ねることは、これからの社会を生きる上で大変重要なものである。同時に、青少年の体験活動に関わる企業、活動の場となる地域にとっても有益なものである。それは、企業にとっては社会的な信頼を増やし、地域にとっては、地域の良さを再発見する機会ともなる。

今後、青少年の体験活動を更に広げ、充実していくためには、国や地方公共団体などと企業・団体との連携を強め、積極的に働きかけることが重要である。

本冊子では、応募のあった46事業の取組を掲載している。活動の内容や企業と地方公共団体、地域との連携など、これからの取組の参考となれば幸いである。

